石川県剣連だより
剣風春秋
第42号
―発行―
一般財団法人
石川県剣道連盟
〒920-0811
金沢市小坂町西57-3 KSハイツ205号室
TEL 076-253-0310 FAX 076-253-0341
E-mail:ishikawa-kendo@iaa.itkeeper.ne.jp
URL www//ishikawa-kendo.com

―特集記事―

2頁「剣道八段に合格して」
強化委員長　宇波　和彦
2~4頁「剣道八段に合格して」
副専務理事　杉本　卓也
4・5頁「剣客往来インタビュー」
七尾市剣道連盟会長　吉田　隆氏

# 第五十五回 全日本居合道大会 開催に向けて

理事（居合道）
作田　剛也

## 一　はじめに

二〇二〇年十月十七日（土）いしかわ総合スポーツセンターで開催予定の本大会は『居合道における最も重要かつ最高位の大会』であり、剣道における「全日本選手権」と「都道府県対抗」の性格を合わせ持つ大会です。

## 二　準備および課題

大会開催に向けては、幾つもの準備事項や課題があります。

### （一）運営経費

先ず、運営経費につきまして県外資料を取り寄せ精査したところ、会場規模等の違いはありますが、おおよそ八百五十～九百万円の予算が必要と分かりました。しかし、本県では、最少限の経費と無駄のない、余剰金のないミニマム構成で七百五十万円の当初予算を組みました。それでも全剣連補助金、県連補助金を合わせても、まだ五十万円の不足があり、広告協賛等は必要不可欠です。ゆとりある運営には、協賛金百万円以上、できれば百五十万円程度の協賛金が必要ではないかと思われます。

### （二）運営面

次に運営面ですが、全日本大会では、本部、総務（電算・賞状）、審判、進行（会場設営・放送・会場・記録・時計・連絡・掲示）、警備・駐車場、受付・弁当、接待、救護、販売、会議（審判・監督）、演武等々、のべ百六十名くらいの係員が必要となります。各係は、責任者を決め、その人を中心に運営することが必要ですが、特定の人が全部を仕切ることには限界があり、一部の人が知っていても、実際に実施する人が知らないと運用できません。担当者は称号・段位を問わず適材・適所に配置したいと思っております。今後、係員・補助員の育成、充実を図り、兼任できることは兼任いたしますが、それでも、居合道だけでカバーする事は難しく、県連・市連の先生方のご助力を心からお願い申し上げます。幸いにも、前年には「東日本地区講習会」の本県開催が決まっており、本年六月に山形で開催された地区講習会に本県より十二名が参加し、各人が「責任者」の気持ちで視察してまいりました。この機会を充分に活かし、各係の熟知度を十分に上げておくことが全日本大会成功への第一歩だと考えます。今後は、各係の熟達はもとより、旅行会社の選定、設営業者・印刷業者等の選定、宿舎等の決定、全剣連との相談・連携、各都道府県への連絡等、準備を進めてまいります。

## 三　大会の様式及び強化

本大会は、五・六・七段各県一名の代表による各段個人優勝戦並びに試合の勝数・旗数による合計点数にて都道府県の順位が決まり、本県の過去最高順位は、平成八年石川県大会の三位です。次回本県開催に向け、選手は悲願の優勝を目指すという重要な責務が課せられており、現在、県内各教室の協力で平日稽古の充実徹底を図るとともに毎日曜日の強化合同稽古を実施、県外各大会にも積極的に出場、また、外部講師招聘の稽古会も予定しており、モチベーションを高く持って大会に臨みたいと思います。

## 四　結びに（ご理解・ご協力）

最後に、大会の準備運営はもちろん、広告協賛等、大会に備え努力しておりますが、如何せん、県内居合道人口は少なく、県連会員各位のご協力なくして、本大会の成功は考えられません。是非とも大会の趣旨等をご理解いただき、ご協力をお願い申し上げる次第です。

特集

# 剣道八段に合格して

強化委員長
宇波 和彦

このたびの京都審査おいて、十年の長きにわたり七度目の二次審査で、幸いにも八段に合格させていただきました。これも今までご指導を賜りました山下先生・末平先生をはじめ多くの先生方や先輩方、その他多くの剣友の皆様、そして何よりも支えてくれた家族のおかげと心から感謝しております。

さて、八段合格までを振り返り「なぜ合格できたのか」「今後八段としてどうあればよいのか」について、自分勝手に述べさせていただくことをおゆるしください。

私が八段を受験するきっかけは、勤務する学校に剣道部が無くなり稽古の場所を県武に求めた時期に、恥ずかしながら「受験資格があるから受けてみよう」ということだったのではないかと思います。その当時は、八段への道のりの厳しさを全く理解もせず、ただ単に稽古の量を増すことのみを考えていたように反省しています。

受審三回目の京都において初めて一次を通過したときは、ただそれだけで満足している自分があり、二次審査では今でも感覚として残っているくらいの「出小手」を打たれ、相手が合格したことを思い出します。その後はしばらく一次を抜け出ることができず、この時初めて合格までの要因について考えるべく、山下先生の京都や愛知への稽古会に同行させていただいたり、先生のご指導について真剣に取り組み始めたように思います。

また、この時期に国体の大将として引き上げていただいたおかげで、強化における厳しい稽古内容の変化と、勝たなければならない精神的鍛錬が培われ、練習試合はもとより公式戦でも自分が納得できる「面」が打てるようになったころから、再度一次を合格できるようになりました。このことから試合に臨む「技と心の鍛錬」が合格への要因を埋める一つではないかと思います。しかしながらこの要因の割合は「三割程度」しかないような気もします。それほど八段とは別格の要因が必要であると思いました。このことは直近の二次審査で「あと一歩」を複数回経験することで、自分なりに強く感じた「足りない点」ではなかったかと思われてなりません。このことを総じて今現在理解できたかもしれないことは、①「立ち居振る舞い」から始まり、②「適正な姿勢」、③「基本に則した打突」、④「攻め勝つ気迫」、⑤「打突の好機」、⑥「練熟な応用技」、⑦「勝負の歩合」、⑧「理合の研究」が着眼点としてあげられ、そしてなによりも最後に、「自分の技に自信と覚悟を持つ」ことではないかと思い、これらの課題として検証していきたいと考えています。

今後、「これらの着眼点が本当に正しいのか」、「まだ抜けているものがないのか」などを一本一本の稽古から検証していくことが、「どうあるべきなのか」という答えに近づいていくように思っています。また、六月の八段研修会において「眼からうろこ」や「本物・本当」を学ぶことによってさらに答えに近づけるのではないかと思っています。

また、この審査の一週間前に指導していただいた「高段者稽古会」における末平先生のご指導も、自分を見つめなおす最終チェックになったことは明らかだと思っています。したがって、現在行われている「高段者・日本剣道形稽古会」はその目的を達成するための正しい取り組みであることが明白であると感じています。

今後も剣友の皆様とともに、それぞれの目的に応じた「稽古会・講習会」の必要性と効果を理解しつつ参加させていただくと同時に、普段の稽古をとおして剣道に関する情報を共有していきたいと思いますので、今後とも「交剣知愛」の心で接していただきますようお願いいたします。重ねて皆様のご厚情に感謝申し上げます。

特集

# 剣道八段に合格して

副専務理事
杉本 卓也

この度、5回目の挑戦で剣道八段に合格させていただきました。これも一重に日頃からご指導いただきました石川県剣道連盟山下和廣会長、末平佑二副会長始め、同役員並びに会員の皆様、また、石川県警察に導いていただいた枡谷敏雄先生や背中を見せていただいた北野優先生、南信廣先生始め、県警剣道

部の先輩・同僚・後輩達、かほく市剣道協会の皆々様のお陰であると感謝しております。そして何より、一番近くで支えてくれた家族の理解があったからと思っています。

私は小学一年生から剣道を始めました。きっかけを作ってくれたのは母親で、嫌がる私の手を引いて自宅近くの剣道教室に連れて行かれたのを覚えています。何回か通ううち、友達も増え、年上の方や指導者から可愛がられるようになり、剣道をするのが次第に楽しみなっていきました。楽しくなってくると大会に出て、優勝したいと思うようになり剣道にのめり込むようになったと記憶していますが、裏を返せば当時の指導者の御指導が上手かったんだと感じております。

小さな頃から、私は剣道の指導者に恵まれたのが影響したのでしょう将来は剣道を通じて人を育てたいと思い教員を目指して大学に進学しました。進んだ先は、神奈川県にある東海大学体育学部武道学科、当然剣道部に所属し、ミッチリ指導を受けました。卒業後、県内の高校で二年間講師として子供達に剣道の指導をさせていただいたのですが、御縁があって石川県警察に奉職、剣道特別強化訓練員（以後「特練員」）として九年間、仲間とともに全国大会上位を目指し訓練に励み、この時六段にも昇段させていただきました。

特練員を終え、警察署勤務になってからも時間を見つけて剣道を続けていたところ、職業柄ではありますが「逮捕術」という術技の指導者を命ぜられ、北野先生の下、同術技と剣道の指導にも携わる機会を頂戴しました。

当時、北野先生率いる特練員は、警察剣道「一部（現在は二部）」に籍をおくほど強く、北野先生の指導法を勉強させていただき、併せてちょうどこの時七段昇段と警察昇任試験に合格させていただいたのが、今日の私の大きな財産となっております。

一旦警察署に出て、二年間勤務していたところ、東京にある警察大学校勤務のお話をいただき、逮捕術を指導する助教授として派遣され、そこで剣道界を代表する石田利也先生と部屋を同じくしての生活を送らせていただくと同時に、各県を代表する先生方と交流並びに稽古する環境を得た事も今回の剣道八段合格の大きな要因の一つとなりました。

東京では、休日は剣道にだけ費やすと心に決めていましたので、二カ所の道場に足を運び、多くの方に稽古を頂戴しました。ですので東京に二年間おりましたが、未だに全く土地勘がありません。

今振り返っても、我ながら剣道一色の人生であるなと思いますが、数多くの素敵な方と出会うことができ、また素敵な時間を共有でき、いろんな場面で助けていただけたのも、剣道を続けていたお陰だと思っております。

まえがきが大変長くなり、申し訳ありませんでしたが、今回剣道八段に合格させていただけましたので、私なりに考えた取組み方法を書かせていただきたいと思います。

まずはじめに、剣道八段審査だけでなく、全ての昇段審査についてもそうですが「審査していただく」という心持ちで臨むようにしています。

そして、心がけたのは、いつもどおりの剣道をするということでした

一次審査を終えた直後、同郷の先生から「少し硬かったな。」と言われ、やはり本番は難しいものだと感じ、心の中で苦笑いしておりましたら、合格発表に番号があり、これがきっかけで完全に肩の力が抜けて、二次審査に臨めました。

一次審査から二次審査までの時間の使い方についても、今回気を付けました。観覧席に座って頭からフードを被り、マスクを付け、目を閉じて好きな音楽を聴いて、準備しました。前回二次審査まで進んだ際は、何時から再度審査が開始されるのかも分からないまま通過したため、会場をウロウロしていたからです。

これは毎回気を付けていることですが、実技以外の不安要素を全て取除いておくことにも気を付けました。例えば、すぐに折れ曲がったりしない真新しい竹刀や白地の手ぬぐいを使用するなどです。

実技審査については、「左手の位置と中心をとる構え」「相手を上回る気勢と気迫」「周囲からも見える攻め」「ため」「打突力のある一拍子の打ち」「初太刀一本の先取」「打ち切ることと直ぐに攻めや応じのできる残心」「打たれた後の気持ちの切り替え」などを意識して挑みました。

今回を振り返りますと、全てができたとは思っていません。実を言いますと、四人の皆様とも初太刀の入り以外は、あまり記憶がないからです。ただ、一振り一振り今私のできる全力で立ち会うことができたという充実感は感じておりました。

今回、剣道八段を合格させていただくことに繋がった稽古法の一つには、石川県剣道連盟が平成二十七年一月から開催している「高段者稽古会」と平成二十九年一月から同じく開催の「日本剣道形稽古会」

であると思います。同連盟会長山下和廣先生、副会長末平佑二先生から直接実技指導いただける稽古会であり、実技審査で意識した事柄は、この稽古会で繰り返し御指導いただきました。

もう一つは、前述したとおり職業柄、警察大学校主任教授石田利也先生や前愛知県警察剣道主席師範東良美先生を始め、全国警察を代表する一流の先生方から直接御指導をいただけた点も大きな要因の一つであり、環境に恵まれたと感謝しております。数多くの先生方から頂戴したアドバイスを記録し、必ず稽古に取り入れ、今の私にできるか取組みました。中でも、福井県警察剣道師範堀江範雄先生、愛知県警察剣道師範北村真二先生には、剣道具を着装してのすり足の切り返し、基本技稽古法等を繰り返し直接御指導いただいたことも今回の結果に結び付いたものと考えております。

週三回勤務時間前の早朝稽古、前述しました県剣道連盟主催の「高段者稽古会」「日本剣道形稽古会」及び毎週火・土曜の稽古会に三年間ほぼ毎回参加し、継続した稽古に努めました。

今春の人事異動で部署が移ってからは、業務運営に必要な知識・作業の早期の修得のため、稽古時間の確保が難しくなりましたが、早朝にジョギングと鏡の前での素振りを中心とした稽古に切り替えて続けていました。

私は凡人なので、何かを成し遂げる際は、対価を払わなければ達成できないと考えている方なので、職場での任務は、しっかりと行った上で、余暇ができても剣道に携わるようにしました。妻や息子らと両親の理解、石川県警察組織の皆様、県警剣道部関係各位及び剣道特練員のご協力に感謝しております。

また、「鬼伝」、「剣道いろは論語」等の書籍に目を通すとともに、中倉清先生や森島健男先生らの映像を始め、剣道八段審査会における合格者や全日本選抜剣道八段優勝大会等の動画を見て研究しました。

生活面では、「剣道修錬の心構え」に沿った人間であるよう、公私における自身の言動に留意した日々を送るよう心がけました。

更に、前述しました「逮捕術」という術技に携わる機会を得、柔道・合気道・空手道・日本拳法など剣道以外の武道の第一人者の思想や取組み方を一部分ではありますが学ばせていただき、剣道の更なる発展に寄与できないか常に考えるようにしています。

最後になりますが、今は、只々感謝しかありませんが、これからも努力を忘れることなく、一歩でも前に進んで行けるよう精進してまいりたいと思っております。

## 剣客往来 インタビュー

七尾市剣道連盟
会長　吉田 隆 氏

今回は、剣道人としては七尾市剣道連盟会長であり、彫刻家（芸術家）としてご活躍なされている吉田　隆さんにインタビューし、日々の生活の中で剣道に支えられている側面などお伺いしたいと思います。

**問　最初に剣道歴についてですが、剣道をはじめられたきっかけについてお聞かせください。**

吉田　父親が剣道好きで、仕事のある時も母親にばれないように防具を担いで試合に出かけていました。そんなに大人が夢中になる剣道がどの様なものか、気になり、中学生になったのを機に剣道部に入りました。

**問　高校・学生時代における剣道はいかがでしたか。**

吉田　高校では田畑武正先生に指導を受けました。春の新人戦で団体準優勝した際に、「二位では意味がない！」と言われました。しかし、インターハイ予選では、また準優勝で全国に行けず、その言葉の重みを実感しました。田畑先生には現在も指導を受けています。大学は同好会の様なもので、稽古は殆どしませんでした。

**問　社会人となってからの剣道はどのようでしたか。海外時代も含めてお聞かせください。**

吉田　大学卒業後、彫刻の勉強のためイタリアへ渡りました。イタリアでは木を削って素振り用の木刀を作りましたが、振った覚えがないくらいです。日本に帰り、再開するまで二十年ほどの期間が空きました。

**問　長年、徳田少年剣道教室の指導に携わっているわけですが、苦労話・思い出話などお聞かせください。**

吉田　私が四十歳になった時、ちょうど息子が剣道教室に通い始め、時々顔を出す様になりました。二年目で指導を任せられ、三年目に全能登で初優勝することができました。嬉しかったですね。色んな子供達がいて、元気すぎる子、おとなしい子、よく喋る子、殆ど話さない子、言ったことを理解して、体で表現できる子と出来ない子、様々

な性格と長所と短所があります。出来ないことをどうしたら出来る様になるのかを考え、剣道が好きになり、続けてくれるように努めました。苦労より、色々と学ぶことの方が多かったです。指導するには、自分自身が良い剣道、正しい剣道を身につけなければ、子供に申し訳ないと思い始め、私も一からやり直すきっかけにもなりました。

**問　彫刻家としての日々のお仕事はいつどのようになされているのですか。**

吉田　空いている時間は紙の上で簡単なスケッチをしています。そのうちこれは、と思うものが出てくれば金属を切ったり、溶接をしたりして実際に形にします。他の方法として、蝋を熱で溶かして、直接立体にしていくこともあります。その蝋の作品を鋳造して、ブロンズなどにします。あとは小さな絵を書いたり、方法は色々です。

**問　毎年、現代美術展における先生の作品を楽しみにしているわけですが、創作のご苦労されている点などお聞かせください。**

吉田　展覧会では作品は少し大きくなりますし、搬入日が決まっているので、時間の戦いですね。早く始めれば良いのにギリギリまで何を作るのか決まらないので、実物製作の時間が足りなくなります。毎回作る形も方法も違うので尚更です。結局この年齢で徹夜をする羽目になり、終わった後は体がガタガタで回復するのに時間がかかります。

**問　今までの人生の上で、剣道をやってきてよかったと思ったこと、さらに剣道に支えられたことなどお聞かせください。**

吉田　学生の時、作品の評価を受けたのですが、先生に良い意味で緊張感があると言われたことがありました。その緊張感は、剣道から得た感覚かもしれません。また、作品を作るときに、やはり集中力がないと形がズレてきます。これにも剣道が役に立ちました。仕事や他のことで自分が弱くなっているとき、昔の厳しい稽古を思い出し、乗り切れたこともあります。

**問　現在の剣道に対する思い、稽古などについてお聞かせください。**

吉田　剣道は彫刻と同じく深くて微妙なところがあり、難しいのですが、その分、大変面白いと思います。私の稽古はまだ基本の面打ち、そして正しい構えをつくることです。

**問　剣道と仕事の両立を目指している若い世代の方々にアドバイスなどお願いします。**

吉田　私は先に言った様に、剣道も仕事もまだ道半ばで、まだ上のレベルに行かなくてはいけません。とても両立しているとは言えませんが、剣道が私を支え、推進力となっていることは確かです。もし出来れば、空いた時間を剣道に当てて欲しいと思います。どんな仕事であっても、剣道に通ずるところはあります。

**問　今後のご自身の生活と剣道との関りの抱負などお聞かせください。**

吉田　現在、日々稽古ができることに感謝をしています。稽古をして汗を流すと心地よく、リフレッシュもできます。その時の自分の体の状態もわかります。少子化で子供達も少なくなりましたが、日本人の道徳観は武道の教えと繋がっているので、一人でも多くの子供達に剣道に触れてもらいたい。また、きちんとした指導ができるように絶えず自分を磨いていこうと思っています。

忙しい中、インタビューをお受けいただき、まことにありがとうございました。彫刻家としてさらにお忙しい日々がつづくことと思いますが、ご健康に留意され一層のご活躍を祈念いたしております。

# 剣道中央講習会（東日本）を受講して

理事　中越　顕治

毎年春に、全日本剣道連盟主催で「剣道中央講習会」が、東日本と西日本に分かれて実施されています。この講習会は、剣道の普及・発展のため、日本剣道連盟と各支部の意思の疎通を図ることと、剣道指導の方向性に関する連絡および伝達を目的とした重要なものです。

各県の指導的立場にある先生方が受講されており、本県から宇波和彦先生と私中越が、重責を担っての参加となりました。私たちを含み、東日本各都道府県から五十七名、さらに道連・学連・学剣連・高体連・官公庁・警察庁などから十名、合計六十七名が参加し、内訳は八段三十四名、七段三十三名、有名な先生では北海道栄花直樹先生、群馬県　谷勝彦先生、神奈川県　宮崎史裕先生らも受講生として参加されていました。

講習会は、本年三月三十一日（土）から四月一日（日）の二日間、千葉県勝浦市の日本武道館研修センターにおいて実施されました。

講習会初日は、剣道範士中田琇士先生の「日本剣道形」に関する講義から始まりました。明治四十四年中学校令施行規則が一部改正されたことに由来し、指導の統一を図ることを目的に、各流派統合の象徴として制定されたもので、理合、精神面とも深い内容を持つまでに発達した伝統文化といえます。この伝統文化である剣道形を正しく継承し、次代に伝えることは大きな意義があります。

形の実技では、重点事項や修錬における基本的な留意点を、実際の動作の示範を見せながら、細かく指導されました。中田先生の日本剣道形は品位と風格があり、剣道の指導者たる者は、これが備わるよう目指さなければならないと思いました。

午後は、剣道範士大嶽將文先生の「剣道審判法」の講義と実技でした。元来試合は、試合者にとって修行の集大成の場であり、今後の修行の在り方を稽える場であるが故に、審判の適否は今後の剣道の在り方に重大な影響を及ぼすものとなります。そのため、審判は適正公平に行い、試合を通して正しい剣道への善導と、人間形成の醸成に努めることが大切として、「審判員の心得」「所作」「公明正大な試合」「有効打突としての諸条件と一本の質的価値」などご指導いただきました。

二日目は、剣道範士加藤浩二先生の「剣道指導法」についての講義と実技指導がありました。指導の在り方については、剣道の理念・剣道修錬の心構えを基盤として、その内容を具現・具象化しなければなりません。そのためには剣の理法（心法・刀法・身法）について、総合的に学習することが指導の根本であります。剣道指導者の在り方について、指導者は技能や人格が学習者に大きな影響を及ぼすことを自覚して、剣道指導の心構えに基づいて剣道観・技量・指導経験等の指導力によって、学習者の要求に的確に応えることが求められます。「子弟同行」や「良師を得なければ学ぶに如かず」を決して忘れてはならないと感じました。

やはり、加藤先生も実際に自分の示範を受講生に模範として見せられ、やはり品位・風格がありました。指導者たる者は口ばかりでなく、模範を示すことがいかに大切であるかが身をもってよくわかりました。

このように二日間の講習会は実に充実したものでした。参加できたことを光栄に思い、ここで得た事や、「剣道講習会資料」の平成二十四年度版から平成二十九年度版への変更点、竹刀および剣道具等の安全性・公平性に関するパブリックコメントの募集についてなどを、地元に帰って的確に伝達しようと思いました。

先般四月十五日（日）、石川県立武道館において、剣道中央講習会の伝達のための剣道講習会を開催したところ、県内全域から八十四名の参加がありました。受講生の真剣な講習態度から実に充実した講習会になりました。

今回は、指導の重点を「日本剣道形」とし、午前の三時間を使い細部まで稽古いたしました。午後は「審判法」と「指導法」と続き、伝達すべき点については資料としてまとめて、受講生にとって少しでも有益であるよう工夫しました。受講生の皆様には、熱心な受講態度ありがとうございました。

## 剣道七段に合格して

白山市　中　明美

この度4月の京都審査会で幸運にも合格させて頂きました。これまでご指導頂いた県連の諸先生方、女性部会の方々、白山市剣道連盟の先生方と仲間、家族に感謝申し上げます。

挑戦のきっかけは、二年前、白山市剣道連盟の稽古仲間数名が昇段を目指すということで、一緒に基本稽古や形稽古を行う中、仲間に強く刺激を受けました。剣道の基本も技術も未熟な私には高いハードルだと思いましたが、自身の心身を高めるためにも、何年掛かっても挑戦しようと決意しました。

私は三回目の挑戦で合格させて頂きましたが、最初の二回の審査では最低評価でした。しかし、三回目の受審にあたり、大きく意識を変える出来事が2つありました。

1つは室谷智代さんの七段昇段です。室谷さんの取組む姿勢・努力・苦労を身近で見てきた中で「相手と攻め気を合わせた稽古」、「打ち急がない溜めた構え」を意識するようになりました。

2つ目は、「お通杯」の出場を切っ掛けに、全国各地の女性稽古会に参加させて頂いたことです。多くの高段者の女性剣道を目の当たりにして、目標とする剣道がより具体的になりました。目標に近づくためには「自分一人で考えるのではなく、自分を客観的に見て頂く」ことを強く意識するようになりました。

稽古は週三回の中学生との部活動、白山市剣道連盟稽古会、県連稽古会に加え、小松の日曜稽古会と高段者稽古会にも参加しました。

小松の日曜稽古会では、岩脇律子先生に基本を見直す稽古を繰り返し御指導頂きました。また高段者稽古会では、自分の剣道を客観的見て頂くことと、指導頂いたことは素直に受け入れる心構えで参加させて頂きました。

審査直前の高段者稽古会では、厳しい御指導を頂きましたが、審査当日、強く思い返すことで、今までにないくらい審査に集中することができました。高段者稽古会での御指導がなければ今回の合格はなかったと思います。

七段の挑戦を通して、剣道に対する勉強不足、また、基本と技術の不足を痛感しました。まだまだ未熟な私ですが、七段昇段を新たな出発点として剣道に精進してまいります。

今後もご指導頂きますよう宜しくお願いいたします。

## 剣道六段に合格して

金沢市　久田　和美

昨年十一月に実技は合格しましたが、形で不合格となり、この四月にやっと京都で六段になれました。

この間、形の指導をしてくださった先生方、稽古にお付き合いくださった剣友の皆様、この機会に心よりお礼申し上げます。また家族、特に主人にも感謝しています。

ママさん剣道から三十年。勝手気ままな稽古をしていますが、それでもご指導くださった先生方のおかげで、これまで続けられたと感謝しています。

思えば、五段の審査時もずいぶん悩み、たくさんの人に助けられました。合格した時に、これからは自分も人の役に立ちたいと考えていましたが、縁あって五十九才で鍼灸の學校に行き、三年間勉強して、平成二十六年に鍼灸師になりました。

すでに二度審査を受けていましたが、仕事・両親の介護・家事で十分な稽古もできませんでした。体は動かず、気力もありませんでした。

富山で地方審査があり、もう一度頑張ってみようと稽古数を増やすことにしました。でも体力的な衰えはなんともしがたく、父も亡くなり、落ち込むばかりでした。

そんな時、五段合格の時のことを思い出し、大きな声を出すことを心掛け、アドバイスは素直にお聞きしようと思いました。そして二週間前になって「どうせ早く打てないのだから、相手を制し、一分の間に一本いい面が打てればよい」と思い、その機を探すようにしました。

なかなか思うような剣道はできませんが、今後はさらに精進し、また鍼灸師として皆さんをサポートしていければと思っています。

そして多くの方が、審査に合格されますようお祈りしています。

## 【全国大会等記録】（1～6月）

### 第27回北信越高校剣道新人大会
2月3・4日、庄川体育センター
◇男子
▽準々決勝
金　沢 1（代表）① 敦　賀
◇女子
▽準々決勝
金沢桜丘 0（代表）⓪ 高岡工芸
羽　咋 1－② 五　泉

### 第27回全国高校選抜剣道大会
3月26～28日、春日井市総合体育館
◇男子
▽一回戦
金沢市工 ④－0 池新田（静岡）
▽二回戦
金沢市工 1－① 大社（島根）
◇女子
▽一回戦
金　沢 0－① 樟南（鹿児島）

### 第40回全国スポーツ少年団剣道交流大会
◇小学生団体　予選リーグ敗退
◇中学生個人
▽男子　藤井 琉生　予選敗退
▽女子　高見 凛香　ベスト16

### 第56回全国居合道高知大会
4月15日、南国市スポーツセンター
◇六段女子の部
2位　北川 裕美子

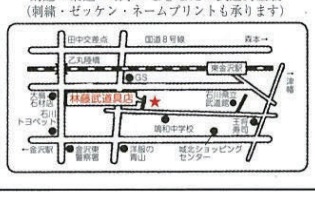
### 第66回都道府県対抗剣道優勝大会
4月29日エディオンアリーナ大阪
▽二回戦
石　川 2－③ 高　知
先　供田　引分　木　下
次　川部　引分　出　張
五　割込　メ－メ　有　岡
中　平戸　－○メ　中澤一
三　上登　－メ　中澤貴
副　佐藤　メ－メツ　中　原
大　中越　ツメ－　田　村

### 第42回東北日本居合道大会
◇七段の部
優秀賞　作田 剛也
優秀賞　松原　剛

### 平成30年度県高校総体剣道競技
5月31日～6月2日、羽咋体育館
◇男子団体
▽決勝
金沢桜丘 ④－1 羽　咋
◇女子団体
▽決勝
金　沢 ③－2 金沢桜丘
◇男子個人
▽決勝
供田（桜丘）不戦勝 北井（金市工）
◇女子個人
▽決勝
中村（金沢）ド－　横町（羽咋）

### 第56回北信越高校剣道大会
6月15～17日、新潟市鳥屋野体育館
◇男子団体
▽準々決勝
羽　咋 2－③ 新潟商
金沢桜丘 1－④ 敦　賀
◇女子団体
▽準々決勝
羽　咋 0－② 敦　賀
◇男子個人
優勝　加地 巧（羽工）
▽決勝
加地 メ－メ 岡本（新潟明訓）
◇女子個人
3位 吉村 香澄（金沢）
▽準決勝
吉村　－メ 山川（敦賀）

### 中央審査会合格者
◇剣道
▽八段　宇波 和彦
　　杉本 卓也
▽七段　中　明美　角田　肇
▽六段　浦　章　久田 和美
　　青木 孝憲　東　秀和
　　松原 宏明
▽教士　山田 義徳


林藤武道具店
〒920-0803 石川県金沢市神宮寺町1番地83
Tel.076-252-2220 Fax.076-252-2240
HP http://www.rindoubudougu.jp/
E-mail:budou@chive.ocn.ne.jp
●定休日／月曜日
［営業品目］
剣道・柔道・空手・なぎなた・武道具全般
（刺繍・ゼッケン・ネームプリントも承ります）


KIRI BRAND
武道具のハシモト
金沢市上荒屋7丁目67　TEL249-8233
〒921-8065　FAX249-9139